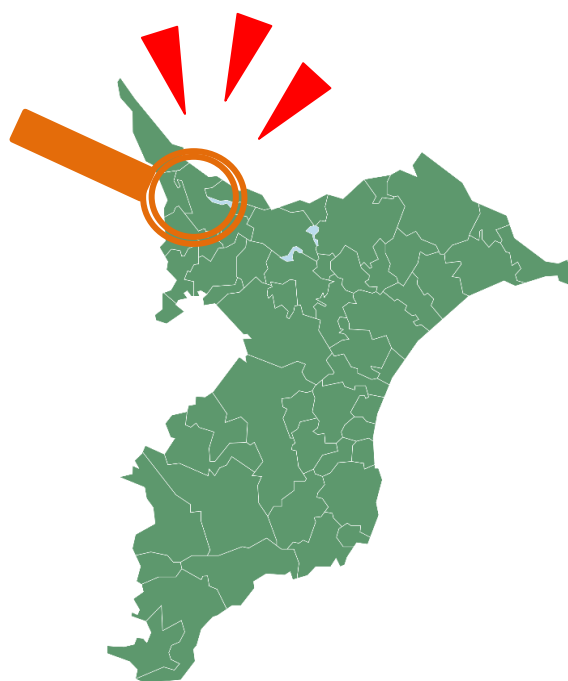


2022・2

柏の景気情報

令和4（2022）年2月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

T E L : 04-7162-3305

F A X : 04-7162-3323

U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E - m a i l : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報 (令和4年2月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

調査期間: 令和4年2月28日～3月9日 調査対象: 柏市内163事業所及び組合にヒアリング、回答数115

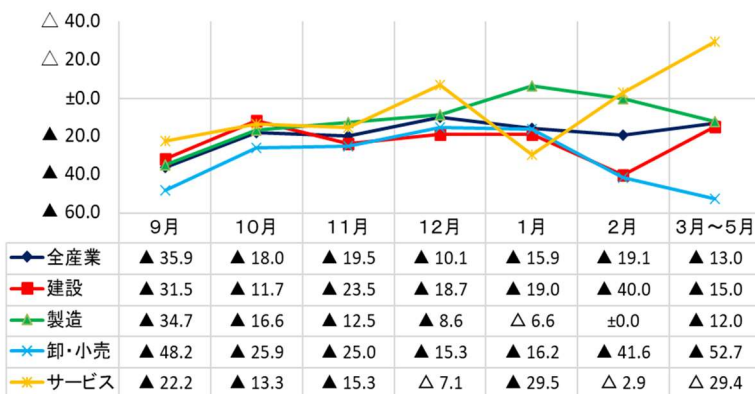
全産業DIは2か月連続で悪化。先行きは業種により回復への期待感が見られるも、ウクライナ情勢も加わり不透明感増す

2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲19.1(前月水準▲15.9)となり、マイナス幅が3.2ポイント拡大した。

まん延防止等重点措置の影響は大きく、サービス業を除いた業種でDI値の悪化となった。外出自粛や営業時間の制限により、飲食店や大型小売店では来店客数や売上が減少した。製造業では半導体や材料不足、納入遅延による生産停滞、コスト上昇による採算悪化のコメントが多く寄せられた。また、コロナの感染拡大なども影響し、それぞれの業種で人不足の声があった。

先行きDIは▲13.0(今月比+6.1)。ロシア・ウクライナ情勢も加わり、先行き不透明感は増す。

柏の景気情報・産業別業況DI



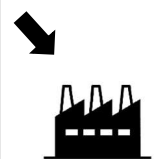
★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「巣ごもり需要が高まる中、家電や車の購入が先で自宅改修は後回し。4月より、アスベスト法改正で実態調査が義務化されるため改修を勧めるが、なかなかご理解いただけない。今後は工期、調査費が膨らむため、先行き不透明」(塗装工事)、「年度末の駆け込み需要は多いが、作業員が不足」(土木工事)、「熊本県の豊表農家は環境に優しいいぐさ栽培に取り組み、豊床はまだ稲わらから作られている。奈良時代から愛され続ける畳は、SDGsの王様だと思う」(畳)



製造業

「材料費高騰で利益は減少しているが、すべてを価格転嫁できない。半導体不足も長期化。また、従業員がコロナ陽性となり長期欠勤によって労働力も不足。ロシア・ウクライナ情勢の影響を注視したい」(金属製品)、「燃料の仕入コストが上昇しているほか、欠品や納期遅れの商材も徐々に増えている。4月以降の仕入の値上げ要請が複数の取引先より来ており、今後は売上が維持できても、採算が圧迫される懸念がある」(自動車付属品)、「受注は好調だが、半導体、電子部品、樹脂部品の遅延により生産ができない。中小企業には部材がまわらず、市場の高騰品の取り合いになっている。この状況は今年いっぱい続きそう」(電子部品)「まん延防止措置の影響もあり、製造数量は再びマイナスに。措置が解除された後の需要増加に期待したい。今後資材等の値上げが予想され厳しい状況が続くと思うが、生産性向上でリカバーしたい」(酒類)



卸・小売業

「得意先への新商品導入や新規得意先数の増加で売上増。飲食店部門の売上は落ちているが、小規模なお寿司屋等はコンスタントに来店。スーパー、EC販売業者、輸出商社の売上は伸長」(農畜産物・水産物卸売)、「上向いていたお客様の流れが激減。特に衣料品が顕著で、旅行・外出関連が悪い。食品は好調を推移。節分の恵方巻が昨年より伸長」(大型小売店)、「バレンタインの企画商品が前年比増」(洋菓子店)、「輸入単価が急上昇。輸送コスト増加が大きく影響し、価格転嫁もやむを得ない」(福祉・防災用具卸)、「ロシア・ウクライナ情勢の影響で運送費が上昇。ただでさえ海上輸送が数年混乱しているのに、さらに悪化しそう。鉄と燃料の値上がり痛い」(産業機械販売)、「まん延防止等重点措置が出ると心理的ブレーキがかかり、急用性のない寝具の上級モデルの必要性を感じない様子」(寝具小売)、「輸入商材の入荷遅延が業績に非常にマイナス」(釣り商品販売)、「輸入水産物は、米国、中国の高値購買力と円安の影響を受け、単価アップが予想される」(水産物卸売)



サービス業

「まん延防止等重点措置の影響で売上減」(日本料理)、「学校が一斉休校となった2年前の新中学1年生が今年3年生になるが、この学年は塾に通っている生徒がいまだに少ない。どこまで入塾者を増やせるかが不安。ただ、下の学年は例年並みに回復しつつある」(学習塾)、「コロナの影響が長く続き、イベント&レンタル業の売上がほぼ全滅」(不動産代理業・仲介)、「原油の高騰が収益に大きく影響。輸送コスト上昇の早期収束を願う」(一般貨物自動車運送)、「仕事は増えるが人材不足で、売上が大幅に上がらない」(ビルメンテナンス)、「2024年から働き方改革の時間外労働の上限規制が適用されるため人員を増やしたいが、求人広告費ばかりかさんで一向に人が来ない状況から抜け出さなければ」(運送)、「テレワーク中心になり、自社内の設備投資が増加」(IT開発)

★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲19.1に対し、「CCI-LOBO」が▲33.9で柏の方がマイナス幅が14.8ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、製造業、サービス業は20ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業であり、10ポイント以上悪い。

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測 (2月速報)

調査期間：2022年2月9日～16日

調査対象：全国の332商工会議所が2,579企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、活動制約とコスト増の影響で大幅悪化。先行きも不透明感拭えず、厳しい見方

2月の全産業合計の業況DIは、▲33.9と、前月から▲15.7ポイントの悪化。36都道府県へのまん延防止等重点措置に伴う外出自粛や営業制限により客足が減少した飲食・宿泊業などのサービス業の業況感が大幅に悪化した。また、持ち直しつつあった自動車関連を中心とした製造業や卸売業でも半導体不足や部品の供給制約に伴う生産調整により売上が落ち込んだ。原油価格を含む資源価格や原材料費の上昇によるコスト増加が続いていることに加え、オミクロン株の感染拡大から従業員の自宅待機に伴う人手不足が発生しているなどの声も聞かれた。中小企業の景況感は調査開始以降最大であった2020年3月(▲16.4ポイント)に次ぐ悪化幅を記録した。※東日本大震災後の2011年4月は▲11.8ポイントの悪化幅

先行きについては、先行き見通しDIが▲34.2(今月比▲0.3ポイント)と悪化を見込む。オミクロン株の感染収束が見通せない中、春の観光需要喪失、受注・売上減少の長期化、年度末を控えた借入金返済時期の到来による資金繰り悪化を不安視する声は多い。また、部品などの供給制約、資源価格の高騰、円安、人件費上昇などの相次ぐコスト増加分の価格転嫁の遅れによる業績悪化への懸念もあり、中小企業においては厳しい見方が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、全ての業種で悪化した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「燃料代の高騰により資材単価の大幅値上げを取引先から求められており、コスト増によるさらなる採算悪化を懸念している」

(一般工事業)、「ベニヤ板などの木材や資材の品薄、価格高騰が続いている。住宅設備や照明器具の入荷の見通しも立っておらず、売上に影響が出ている」(建築工事業)

【製造業】「飲食店向けの商品の出荷が減少。事業復活支援金の対象にならないギリギリの売上で推移しており、事業継続が苦しい状態に陥っている」(水産食料品製造業)、「鋼材だけでなく生産で使用する燃料の仕入れコストが上昇しているほか、欠品や納期遅れの商材も徐々に増えている。4月以降の仕入れの値上げ要請が複数の取引先から来ており、今後は売上が維持できても、採算が圧迫される懸念がある」(自動車部品製造業)

【卸売業】「イベントが再開されて業況が改善傾向にあったが、オミクロン株の感染拡大によりイベント中止が相次ぎ、売上は悪化。また、包装資材や灯油、ガソリンの価格が上昇しており、今後の採算悪化は避けられない」(食料品卸売業)、「世界的なサプライチェーンの混乱により仕入部品の納期が以前の2倍以上と長

期化しており、現場の業務停止の可能性も出てきた。原油や原材料の価格が高騰しており、上昇分を販売価格に転嫁することを検討している」(一般機械器具卸売業)

【小売業】「1月中旬以降飲食店への酒類をはじめとした飲料の納入が激減。売上が大幅に悪化しており、この状態が続けば資金繰りは相当厳しくなる」(酒類小売業)、「日用品値上げの報道から、買いだめをする客が増えており、売上は好調。ただし、オミクロン株の感染拡大により従業員の自宅待機者が増えており、人員の確保が難しくなっている」(総合スーパー)

【サービス業】「まん延防止等重点措置が適用となったことから、店内飲食を休業し、テイクアウトのみの営業としていたため、売上は悪化している」(飲食業)、「春の観光シーズンを目前に控えた時期に感染が収まらず、3年連続観光イベントや主要行事が中止・延期となり、経営の不安が増している。客単価が低いまま仕入れコストの上昇や人手の確保難が

重なり、経営的にかなり厳しい状況となっている」(宿泊業)















全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
9月	▲33.2	▲18.7	▲18.1	▲35.0	▲48.0	▲43.8
10月	▲28.9	▲22.1	▲14.7	▲32.1	▲42.2	▲34.8
11月	▲21.1	▲18.2	▲13.7	▲20.8	▲35.2	▲18.9
12月	▲15.8	▲16.3	▲9.3	▲11.6	▲30.0	▲12.5
1月	▲18.2	▲21.5	▲6.9	▲18.1	▲26.7	▲20.4
2月	▲33.9	▲22.9	▲21.1	▲38.2	▲43.8	▲43.2
見通し	▲34.2	▲28.7	▲22.1	▲40.4	▲40.1	▲41.8

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 19.1	 ▲ 40.0	 ± 0.0	 ▲ 41.6	 2.9
CCI-LOBO	 ▲ 33.9	 ▲ 22.9	 ▲ 21.1	 ▲ 43.8	 ▲ 43.2
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 10.4	 ▲ 30.0	 4.0	 ▲ 22.2	 2.9
CCI-LOBO	 ▲ 23.5	 ▲ 16.8	 ▲ 13.5	 ▲ 38.9	 ▲ 25.8
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 20.8	 ▲ 30.0	 ▲ 28.0	 ▲ 36.1	 5.8
CCI-LOBO	 ▲ 35.5	 ▲ 32.1	 ▲ 30.4	 ▲ 43.1	 ▲ 39.5
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 52.1	 ▲ 50.0	 ▲ 80.0	 ▲ 55.5	 ▲ 29.4
CCI-LOBO	 ▲ 61.2	 ▲ 77.1	 ▲ 70.4	 ▲ 52.9	 ▲ 48.4
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 11.3	 15.0	 8.0	 11.1	 11.7
CCI-LOBO	 14.2	 28.4	 11.9	 10.0	 12.5
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 18.2	 ▲ 20.0	 ▲ 32.0	 ▲ 27.7	 2.9
CCI-LOBO	 ▲ 20.8	 ▲ 6.4	 ▲ 17.3	 ▲ 29.8	 ▲ 27.9

令和4年（2022年）2月の動向

【業況について】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲19.1（前月水準▲15.9）となり、マイナス幅が3.2ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△2.9(同▲29.5)である。プラス幅が縮小した業種は、製造業±0.0(同△6.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲41.6(同▲16.2)、建設業▲40.0(同▲19.0)である。

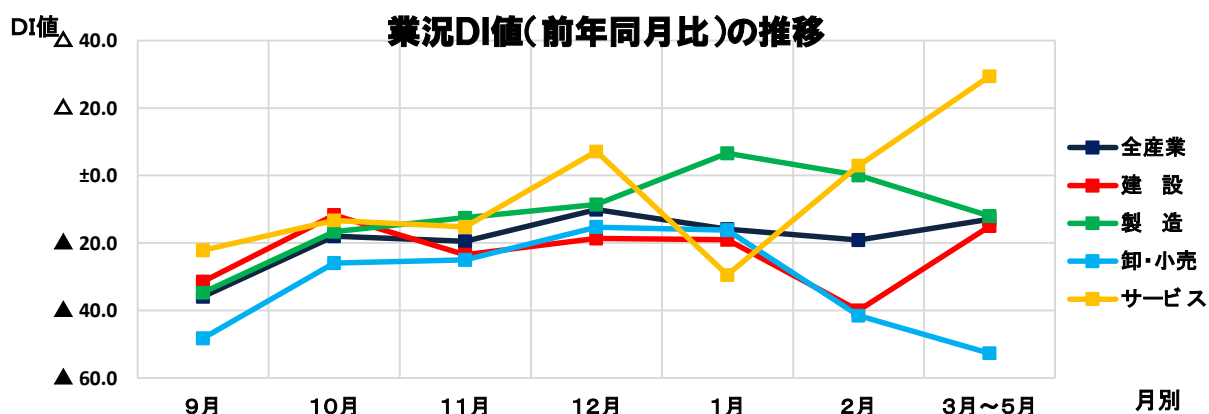
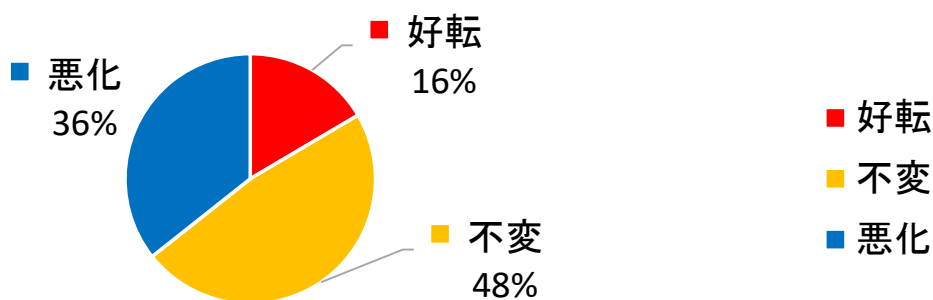
○ 向こう3ヶ月（3月から5月）の先行き見通しについては、全産業では、▲13.0（前月水準▲16.6）となり、マイナス幅が3.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△29.4(同▲22.7)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲15.0(同△4.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲52.7(同▲35.1)、製造業▲12.0(同±0.0)である。

業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和3年 9月	10月	11月	12月	令和4年 1月	2月	先行き見通し 3月～5月（2月～4月）
全産業	▲35.9	▲18.0	▲19.5	▲10.1	▲15.9	▲19.1	▲13.0（▲16.6）
建設	▲31.5	▲11.7	▲23.5	▲18.7	▲19.0	▲40.0	▲15.0（△4.7）
製造	▲34.7	▲16.6	▲12.5	▲8.6	△6.6	±0.0	▲12.0（±0.0）
卸・小売	▲48.2	▲25.9	▲25.0	▲15.3	▲16.2	▲41.6	▲52.7（▲35.1）
サービス	▲22.2	▲13.3	▲15.3	△7.1	▲29.5	△2.9	△29.4（▲22.7）

前年同月と比べた今月の業況について



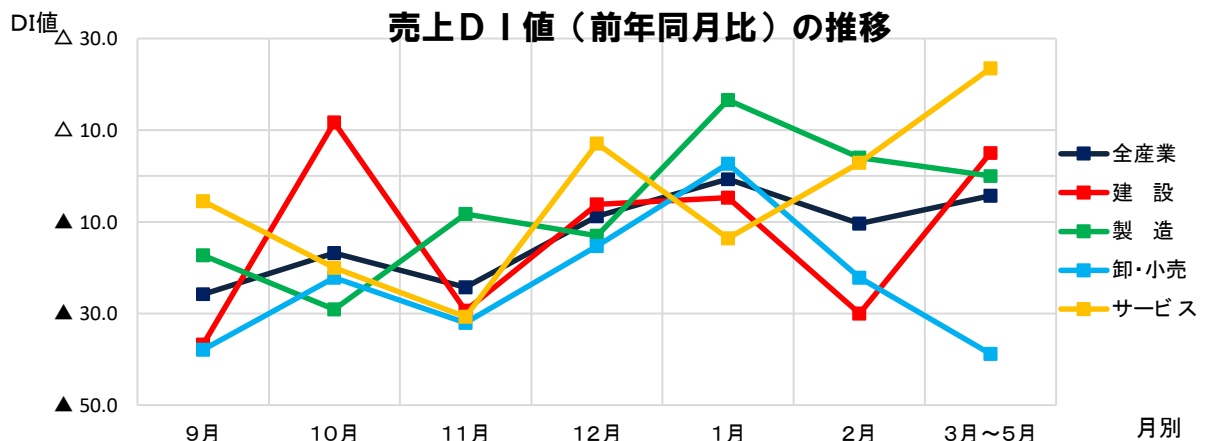
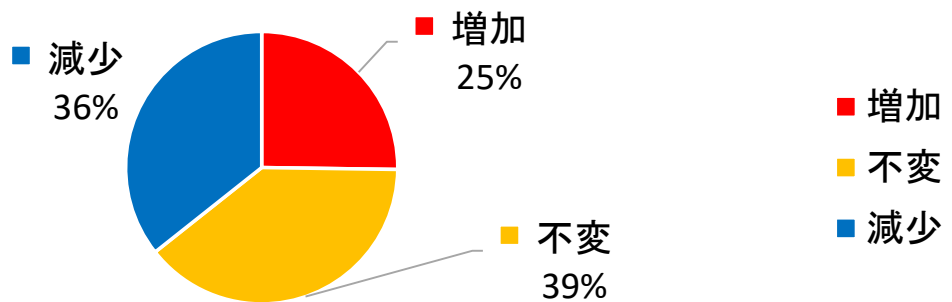
【売上について】

- 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.4(前月水準▲0.7)となり、マイナス幅が9.7ポイント拡大した。
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△2.9(同▲13.6)である。プラス幅が縮小した業種は、製造業△4.0(同△16.6)である。プラスからマイナスに転じた業種は、卸小売業▲22.2(同△2.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲30.0(同▲4.7)である。
- 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲4.3(前月水準▲12.8)となり、マイナス幅が8.5ポイント縮小する見通しである。
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△23.5(同▲20.4)、建設業△5.0(同▲4.7)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業±0.0(同△10.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲38.8(同▲27.0)である。

売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和3年 9月	10月	11月	12月	令和4年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲25.8	▲16.8	▲24.3	▲8.8	▲0.7	▲10.4	▲4.3(▲12.8)
建設	▲36.8	△11.7	▲29.4	▲6.2	▲4.7	▲30.0	△5.0(▲4.7)
製造	▲17.3	▲29.1	▲8.3	▲13.0	△16.6	△4.0	±0.0(△10.0)
卸・小売	▲37.9	▲22.2	▲32.1	▲15.3	△2.7	▲22.2	▲38.8(▲27.0)
サービス	▲5.5	▲20.0	▲30.7	△7.1	▲13.6	△2.9	△23.5(▲20.4)

前年同月と比べた今月の売上について



【採算について】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20.8(前月水準▲14.3)となり、マイナス幅が6.5ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△5.8(同▲15.9)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲28.0(同▲6.6)、卸小売業▲36.1(同▲16.2)、建設業▲30.0(同▲19.0)である。

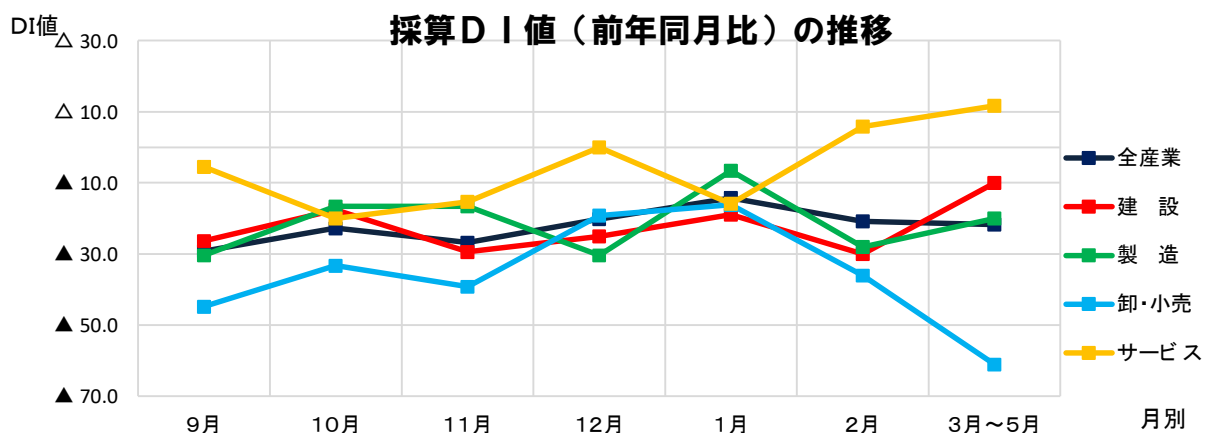
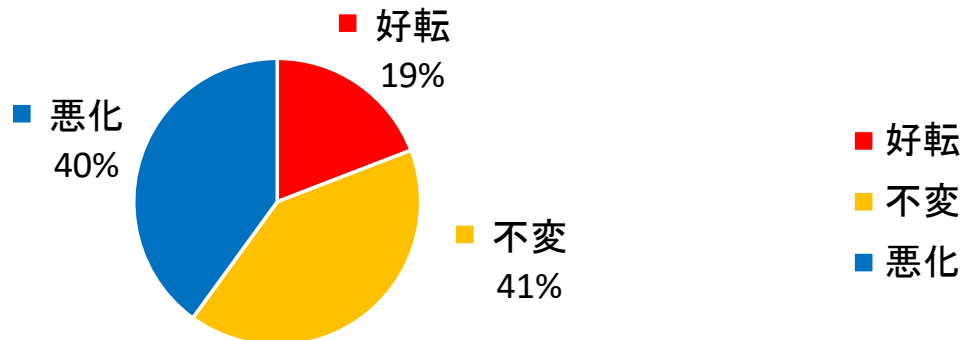
○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲21.7(前月水準▲21.2)であり、マイナス幅が0.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△11.7(同▲18.1)である。変わらない見通しの業種は、製造業▲20.0(同▲20.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲61.1(同▲32.4)、建設業▲10.0(同▲9.5)である。

採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和3年 9月	10月	11月	12月	令和4年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲29.2	▲22.8	▲26.8	▲20.2	▲14.3	▲20.8	▲21.7(▲21.2)
建設	▲26.3	▲17.6	▲29.4	▲25.0	▲19.0	▲30.0	▲10.0(▲9.5)
製造	▲30.4	▲16.6	▲16.6	▲30.4	▲6.6	▲28.0	▲20.0(▲20.0)
卸・小売	▲44.8	▲33.3	▲39.2	▲19.2	▲16.2	▲36.1	▲61.1(▲32.4)
サービス	▲5.5	▲20.0	▲15.3	±0.0	▲15.9	△5.8	△11.7(▲18.1)

前年同月と比べた今月の採算について



【仕入単価について】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲52.1(前月水準▲56.0)となり、マイナス幅が3.9ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲55.5(同▲67.5)、製造業▲80.0(同▲83.3)、建設業▲50.0(同▲52.3)、サービス業▲29.4(同▲29.5)である。

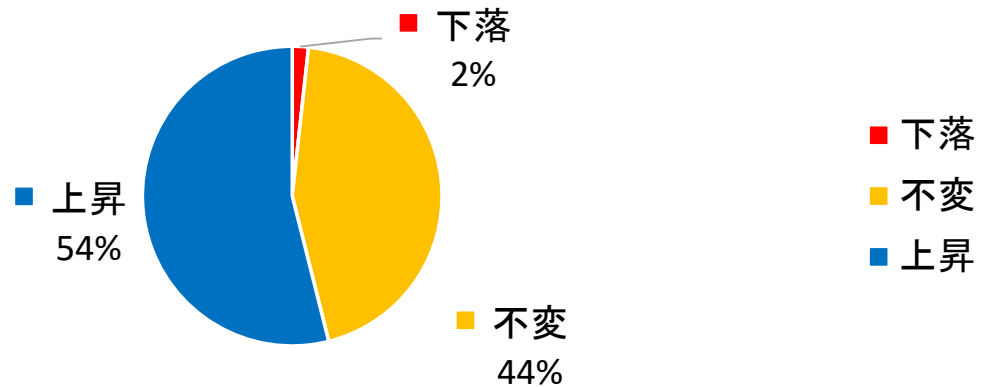
○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲55.6(前月水準▲52.2)となり、マイナス幅が3.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲23.5(同▲29.5)である。変らない見通しの業種は、製造業▲80.0(同▲80.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲69.4(同▲56.7)、建設業▲55.0(同▲52.3)である。

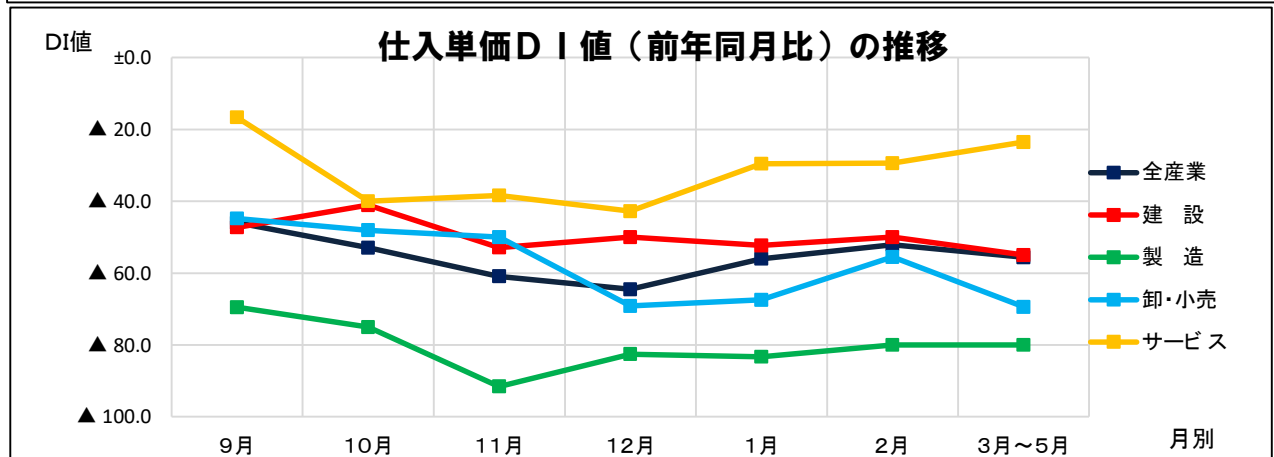
仕入単価DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

	令和3年 9月	10月	11月	12月	令和4年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲46.0	▲53.0	▲60.9	▲64.5	▲56.0	▲52.1	▲55.6(▲52.2)
建設	▲47.3	▲41.1	▲52.9	▲50.0	▲52.3	▲50.0	▲55.0(▲52.3)
製造	▲69.5	▲75.0	▲91.6	▲82.6	▲83.3	▲80.0	▲80.0(▲80.0)
卸・小売	▲44.8	▲48.1	▲50.0	▲69.2	▲67.5	▲55.5	▲69.4(▲56.7)
サービス	▲16.6	▲40.0	▲38.4	▲42.8	▲29.5	▲29.4	▲23.5(▲29.5)

前年同月と比べた今月の仕入単価について



仕入単価DI値(前年同月比)の推移



【従業員について】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△11.3(前月水準△15.9)となり、プラス幅が4.6ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△11.7(同△4.5)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業△15.0(同△33.3)、卸小売業△11.1(同△21.6)、製造業△8.0(同△13.3)である。

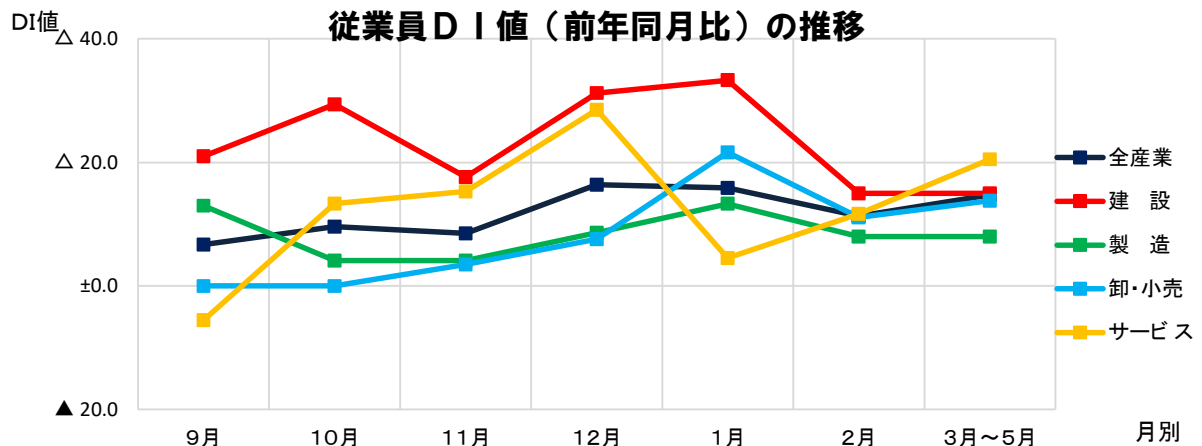
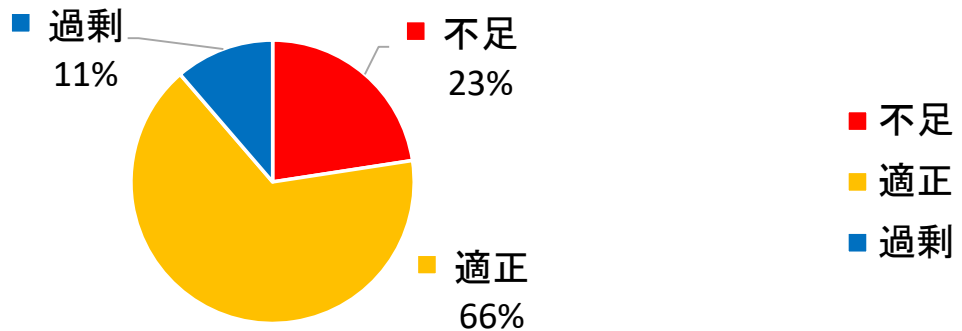
○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、△14.7(前月水準△21.9)となり、プラス幅が7.2ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△20.5(同△11.3)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△15.0(同△42.8)、卸小売業△13.8(同△27.0)、製造業△8.0(同△16.6)である。

従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和3年 9月	10月	11月	12月	令和4年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	△6.7	△9.6	△8.5	△16.4	△15.9	△11.3	△14.7(△21.9)
建設	△21.0	△29.4	△17.6	△31.2	△33.3	△15.0	△15.0(△42.8)
製造	△13.0	△4.1	△4.1	△8.6	△13.3	△8.0	△8.0(△16.6)
卸・小売	±0.0	±0.0	△3.5	△7.6	△21.6	△11.1	△13.8(△27.0)
サービス	▲5.5	△13.3	△15.3	△28.5	△4.5	△11.7	△20.5(△11.3)

前年同月と比べた今月の従業員について



【資金繰りについて】

○ 2月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.2(前月水準▲9.8)となり、マイナス幅が8.4ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△2.9(同▲13.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲27.7(同▲2.7)、製造業▲32.0(同▲13.3)、建設業▲20.0(同▲9.5)である。

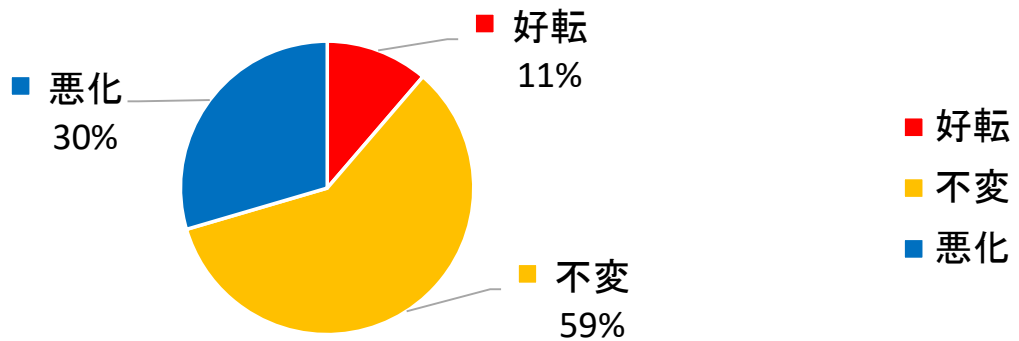
○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.7(前月水準▲17.4)となり、マイナス幅が2.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△14.7(同▲20.4)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲15.0(同±0.0)、卸小売業▲30.5(同▲18.9)、製造業▲32.0(同▲23.3)である。

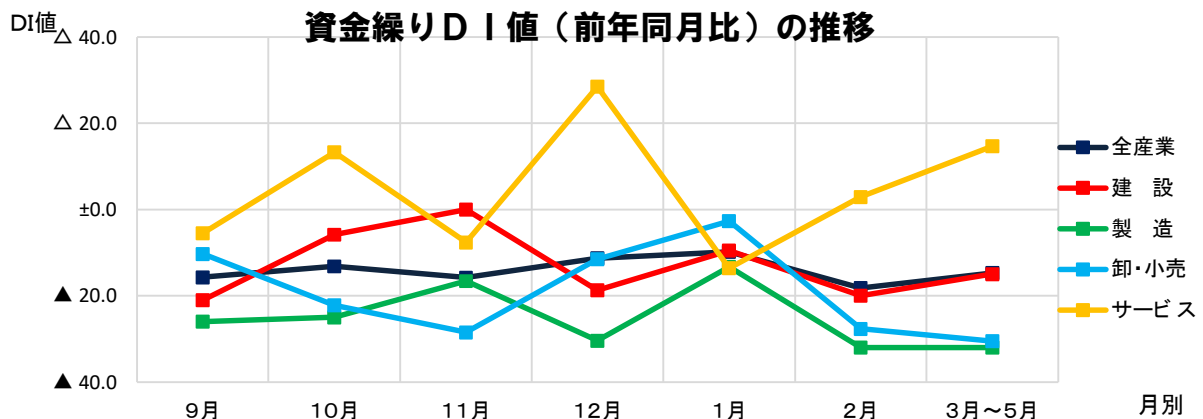
資金繰りD I値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和3年 9月	10月	11月	12月	令和4年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲15.7	▲13.2	▲15.8	▲11.3	▲9.8	▲18.2	▲14.7(▲17.4)
建設	▲21.0	▲5.8	±0.0	▲18.7	▲9.5	▲20.0	▲15.0(±0.0)
製造	▲26.0	▲25.0	▲16.6	▲30.4	▲13.3	▲32.0	▲32.0(▲23.3)
卸・小売	▲10.3	▲22.2	▲28.5	▲11.5	▲2.7	▲27.7	▲30.5(▲18.9)
サービス	▲5.5	△13.3	▲7.6	△28.5	▲13.6	△2.9	△14.7(▲20.4)

前年同月と比べた今月の資金繰りについて



資金繰りD I値(前年同月比)の推移



調査結果のポイント

◀全産業D I は2か月連続で悪化。先行きは業種により回復への期待が見られるも、ウクライナ情勢も加わり不透明感増す▶

2月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲19.1(前月水準▲15.9)となり、マイナス幅が3.2ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△2.9(同▲29.5)である。プラス幅が縮小した業種は、製造業±0.0(同△6.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲41.6(同▲16.2)、建設業▲40.0(同▲19.0)である。

まん延防止等重点措置の影響は大きく、サービス業を除いた業種でD I 値の悪化となった。外出自粛や営業時間の制限により、飲食店や大型小売店では来店客数や売上が減少した。製造業では半導体や材料不足、納入遅延による生産停滞、コスト上昇による採算悪化のコメントが多く寄せられた。また、コロナの感染拡大なども影響し、それぞれの業種で人出不足の声があった。

先行きD I は▲13.0(今月比+6.1)。ロシア・ウクライナ情勢も加わり、先行き不透明感は増す。

【建設業】からは、「巣ごもり需要が高まる中、家電や車の購入が先で自宅改修は後回し。4月より、アスベスト法改正で実態調査が義務化されるため改修を勧めるが、なかなかご理解いただけない。今後は工期、調査費が膨らむため、先行き不透明」(塗装工事)、「年度末の駆け込み需要は多いが、作業員が不足」(土木工事)、「熊本県の豊表農家は環境に優しいいぐさ栽培に取り組み、豊床はまだ稲わらから作られている。奈良時代から愛され続ける畳は、SDGsの王様だと思う」(畳)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「材料費高騰で利益は減少しているが、すべてを価格転嫁できない。半導体不足も長期化。また、従業員がコロナ陽性となり長期欠勤によって労働力も不足。ロシア・ウクライナ情勢の影響を注視したい」(金属製品)、「燃料の仕入コストが上昇しているほか、欠品や納期遅れの商材も徐々に増えている。4月以降の仕入の値上げ要請が複数の取引先より来ており、今後は売上が維持できても、採算が圧迫される懸念がある」(自動車付属品)、「受注は好調だが、半導体、電子部品、樹脂部品の遅延によりものづくりができない。中小企業には部材がまわらず、市場の高騰品の取り合いになっている。品薄で原価が上がり、利益を圧迫。この状況は今年いっぱい続きそう」(電子部品)「まん延防止措置の影響もあり、製造数量は再びマイナスに。措置が解除された後の需要増加に期待したい。今後資材等の値上げが予想される厳しい状況が続くと思うが、生産性向上でリカバリーしたい」(酒類)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「得意先への新商品導入や新規得意先数の増加で売上増。飲食店売上は落ちているが、小規模なお寿司屋等はコンスタントに来店。スーパー、EC販売業者、輸出商社売上は伸長」(農畜産物・水産物卸売)、「上向いていたお客様の流れが激減。特に衣料品が顕著で、旅行・外出関連が悪い。食品は好調を推移。節分の恵方巻が昨年より伸長」(大型小売店)、「バレンタインの企画商品が前年比増」(洋菓子店)、「輸入単価が急上昇。輸送コストの増加が大きく影響しており、価格転嫁もやむを得ない」(福祉・防災用具卸)、「ロシア・ウクライナ情勢の影響で運送費が上昇。ただでさえ海上輸送が数年混乱しているのに、さらに悪化するのでは。鉄と燃料の値上がりが痛い」(産業機械販売)、「まん延防止等重点措置が出ると、寝具は必需品だが上級モデルにする急要性を感じないという心理が働く」(寝具小売)、「輸入商材の入荷遅延が続く業績に非常にマイナス」(釣り商品販売)、「輸入水産物は、米国、中国の高値購買力と円安の影響を受け、コスト高、単価高が予想される」(水産物卸売)とのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「まん延防止等重点措置の影響で売上減」(日本料理)、「学校が一斉休校となった2年前の新中学1年生が今年3年生になるが、この学年は塾に通っている生徒がまだに少ない。どこまで入塾者を増やせるかが不安。ただ、下の学年は例年並みに回復しつつある」(学習塾)、「コロナの影響が長く続き、イベント&レンタル業の売上がほぼ全減」(不動産代理業・仲介)、「原油の高騰が収益に大きく影響。輸送コスト上昇の早期収束を願う」(一般貨物自動車運送)、「仕事は増えるが人材不足で、売上が大幅に上がらない」(ビルメンテナンス)、「2024年から働き方改革の時間外労働の上限規制が適用されるため人員を増やしたいが、求人広告費ばかりかさんで一向に人が来ない状況から抜け出さなければ」(運送)、「テレワーク中心になり、自社内の設備投資が増加」(IT開発)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
9月	▲35.9	▲31.5	▲34.7	▲48.2	▲22.2
10月	▲18.0	▲11.7	▲16.6	▲25.9	▲13.3
11月	▲19.5	▲23.5	▲12.5	▲25.0	▲15.3
12月	▲10.1	▲18.7	▲8.6	▲15.3	△7.1
1月	▲15.9	▲19.0	△6.6	▲16.2	▲29.5
2月	▲19.1	▲40.0	±0.0	▲41.6	△2.9
見通し	▲13.0	▲15.0	▲12.0	▲52.7	△29.4

通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し

【産業別】 今月及び先行きのD I 値

	売上高（受注・出荷）		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 10.4	▲ 4.3	▲ 20.8	▲ 21.7	▲ 52.1	▲ 55.6	△ 11.3	△ 14.7
建設	▲ 30.0	△ 5.0	▲ 30.0	▲ 10.0	▲ 50.0	▲ 55.0	△ 15.0	△ 15.0
製造	△ 4.0	±0.0	▲ 28.0	▲ 20.0	▲ 80.0	▲ 80.0	△ 8.0	△ 8.0
卸・小売	▲ 22.2	▲ 38.8	▲ 36.1	▲ 61.1	▲ 55.5	▲ 69.4	△ 11.1	△ 13.8
サービス	△ 2.9	△ 23.5	△ 5.8	△ 11.7	▲ 29.4	▲ 23.5	△ 11.7	△ 20.5

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 19.1	▲ 13.0	▲ 18.2	▲ 14.7
建設	▲ 40.0	▲ 15.0	▲ 20.0	▲ 15.0
製造	±0.0	▲ 12.0	▲ 32.0	▲ 32.0
卸・小売	▲ 41.6	▲ 52.7	▲ 27.7	▲ 30.5
サービス	△ 2.9	△ 29.4	△ 2.9	△ 14.7

CCI - LOBOとの比較

【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲19.1に対し、「CCI-LOBO」が▲33.9で柏の方がマイナス幅が14.8ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、製造業、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業であり、10ポイント以上悪い。

【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲10.4に対し、「CCI-LOBO」が▲23.5で柏の方がマイナス幅が13.1ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業であり、10ポイント以上悪い。

【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲20.8に対し、「CCI-LOBO」が▲35.5で柏の方がマイナス幅が14.7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。

【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲52.1に対し、「CCI-LOBO」が▲61.2で柏の方がマイナス幅が9.1ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業である。

【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△11.3に対し、「CCI-LOBO」が△14.2で柏の方がプラス幅が2.9ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方がよい業種は、卸小売業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、建設業は10ポイント以上悪い。

【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲18.2に対し、「CCI-LOBO」が▲20.8で柏の方がマイナス幅が2.6ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業であり、10ポイント以上悪い。

【業種別】業界内トピックス

業種別	概 況	トピック	業種
建設業	コロナが長引き、変化した経済状況が通常化してきており、消費の変化も実感。巣ごもり需要が高まる中、家電や車などの購入が先で、自宅改修は後回しにされている。令和4年4月よりアスベスト法改正で、厚労省、環境省が定める実態調査が義務化されるため、今のうちに改修されることを勧めるが、なかなかご理解いただけないのが現状。4月以降は工期、調査費が膨らみ、先行き不透明。	巣ごもり需要 アスベスト法改正	塗装工事業
	コロナ発症に伴い低金利の融資を受け返済しているが、利子補給が終わる2年後は、利率の高い返済になる。このまま売上が伸び悩み、仕入単価が上がり続けるようであれば、返済は大きな負担となる。	コロナ融資	とび
	年度末で駆け込み需要が多いが、作業員が不足している。	年度末需要 作業員不足	土木工事業
	熊本県の豊農農家さんは環境に優しい、いぐさ栽培に取り組んでいたりと、豊床はまだ稲わらから作られていたりする。奈良時代から愛され続けている豊は、SDGsの王様だなあと思う今日この頃。	SDGs	豊工事請負・豊製造販売業
	商品の入荷が大幅に遅れていて、受注に影響が続いている	商品の納期遅延	一般土木建築工事業
製造業	新型コロナウイルスの影響で落ち込んでいる口紅容器の受注に全く回復傾向が見られない。医療品容器の受注はここにきて回復してきたがまだ勢いに欠ける。新企画が立ち上がれば挽回できるのだが、まだはつきりしない。	医療品容器 回復傾向	プラスチック加工
	コロナの影響は販売機種の傾向が変わっただけで金額の大幅な増減は見られない。しかし電子部品の調達困難により調達コストが大幅に上がっている。ロシアの動きに伴う鋼材の原材料値上げが懸念される。	部品調達コスト増 ロシア・ウクライナ情勢	機械・同部品製造業
	新型コロナウイルスによるまん延防止措置の影響もあり、製造数量は再びマイナスに転じてきている。今後、措置が解除になり需要の増加に期待したい。また、今後資材等の値上げが予想されるため厳しい状況が続くと思われるが、生産性向上等でリカバリーしていきたい。	製造数量減少	酒類製造業
	電子機器、材料等の品不足により正常な営業活動がとれない。	材料不足	金属加工機械製造業
	コロナ禍のみならず、半導体不足の影響などもあり、依然として深刻な経営不振が続いている。	経営不振	電子応用装置製造業
	材料費高騰が続き利益は減少しているが、すべてを価格転嫁できない。半導体不足も長引いている。また、従業員がコロナ陽性となり長期欠勤によって労働力も不足。全従業員の定期健康診断を実施した。健康が大切だと実感してもらいたい。ウクライナ危機が今後どのように影響してくるか注視していきたい。	材料費高騰 コロナ陽性による労働力不足 ロシア・ウクライナ情勢	金属製品
	売上、利益等は好転だが燃料コストが上昇。この先の収益確保には、上昇分に見合う程度のコスト削減が必要となる。新型コロナウイルスの濃厚接者が出てきて、操業に支障をきたさないような対応が必須。	燃料コスト上昇 コロナによる労働力不足	その他の鉄鋼業
	原材料が高騰しており、金属、樹脂ともに過去にない上昇額で調達も困難。また、お客様は半導体が入手困難。さらに、海外ロックダウンによるサプライチェーンの断絶により部品が入手難。エンドユーザーの注文はあるが、これらの部品入手困難によって弊社のお客様の組立がストップしている。	材料の入手困難	金属素形材製品製造業
	借入を抑え、資金繰りは自転車操業的であるけれど、業況を静観するのみで業務転化は難しい。	業務転化困難	印刷業
	新型コロナウイルスによる影響で、材料、燃料の仕入れコストが上がってきている。また欠品、納期遅れの商材も徐々に増えてきた。4月以降の仕入商材の値上げ要請は各仕入先より来ている。販売価格に反映出来るものは良いが、難しいものもあるので、売上が維持出来ても今後利益を圧迫する懸念がある。	材料、燃料コスト上昇	自動車付属品製造業

【業種別】業界内トピックス

	元々の営業力の差もあるかもしれないが、コロナ後の受注減少が大きい。各種支援金は受給できたものの、売上の回復がなければ事業継続は難しくなってくる。一時的に借りることが出来たとしても、返せるめどが立たないのでは借金する気にはならない。	受注減少	金属加工業
	半導体のみならず電子部品、樹脂部品の遅延により受注は好調であるが、ものづくりができない状況。世界的に部材が不足しており、中小企業には部材がまわってこないため、市場にでまわっている高騰品の取り合いになっている。品薄で原価が上がり、利益を圧迫。この状況は今年いっぱい続きそうである。	電子部品等不足 生産停滞 利益圧迫	電子部品等製造業
	半導体の入手が出来ないため、製品が作れない。注文に対しリードタイムが長くなっている。原価が上がっている。入手不足部品に対してネットの価格は10倍～100倍以上。	半導体入手困難 生産停滞	製造業
卸・小売	まん延防止が終了した後の人の流れによるが、社会行事、地域行事が出来る状況になれば景気も上向く。	社会行事回復で景気上昇	大型小売店
	売上自体は得意先への新商品導入や新規得意先数の増加により増えているものの、海苔の原料価格はこの先下がる見込みはなく、中間流通としての役割も従来通りにはいかないだろう。売上を落としているセクションは完全に飲食店で、特にテイクアウトやデリバリーに対応していない店舗である。小規模なお寿司屋さんなどは意外とコロナの影響がないのかコンスタントに来店している。売上を伸ばしているのはスーパー、EC販売業者、輸出商社など。今後は東葛飾地域の数少ない海苔専門店としてEC販売、そしてオフラインでの直営店機能強化を目指すと同時に生産分野への進出も計画している。	売上増加 EC販売 生産分野への進出	農畜産物・水産物卸売業
	まん延防止の延長および市内感染者数の増加により、戻りかけた「にぎわい」が再び減少傾向へ。2月から3月かけて閉店あり。空き店舗は埋まらず。	にぎわい減少 店舗閉店	各種商品小売業
	まん延防止等重点措置が発出されてからは、上向いていたお客様の流れが激減している。特に衣料品が顕著で、旅行・外出関連が軒並み動向が悪くなってしまった。食品は好調を推移している。イベントは節分の恵方巻が昨年以上に伸長した。	衣料品売上減少 旅行・外出関連品不良 食品好調 節分の恵方巻売上伸長	大型小売店
	バレンタインの企画商品が好調で前年比増。	バレンタイン商品前年比増	洋菓子店
	現状は、非常に難しい。唯一の希望がコロナ飲み薬早期承認で、第5種インフルエンザ同等になるとこの先希望が見えるように思える。	景気不調 コロナ飲み薬の早期承認希望	時計・眼鏡・光学機械小売業
	仕入原価の上昇によって予定通りの粗利率が取りづらくなっている。今後も続いていくので売価にも大きく影響して行くであろう。	仕入原価上昇	各種食料品小売業
	これ以上の原材料の値上げが心配。	原材料値上げ	洋菓子店
	半導体不足による商品不足や仕入単価の上昇、納期の遅延が業績向上に対し大きな阻害要因となっている。設備投資・一般消費・メンテナンスのすべてに影響が出ており、インフレの大きな要因にもなっている。その他の部品や原材料の値上げも天井知らず。原油高からくる輸送コストの増加は商品価格に影響が出ており、ウクライナ問題も含め見通しが全くつかない。	商品不足、納期遅延 ロシア・ウクライナ情勢 先行き不透明	卸小売業
	輸入単価の急激な上昇。輸送コストの増加が大きく影響している。価格転嫁もやむを得ないと思っている。	輸入単価の急上昇	福祉・防災用具卸
ロシアのせいで、エネルギー関係の価格上昇、それに伴う運送費の上昇、コストプッシュインフレの加速が世界規模で見込まれる。たださえ海上輸送が数年間混乱しているのに、それがさらに悪化する恐れがあるので、全産業にとってマイナスなのでは。物流業界的には鉄と燃料の値上がりも痛い。従業員の給料をいかに上げるかを考えないと、どこの企業も苦しい。	ロシア・ウクライナ情勢 コストプッシュインフレ	産業機械販売	

【業種別】業界内トピックス

	<p>「まん延防止等重点措置」等が発出されると一般的な人々の心にプレッシャーがかかる。当社のように寝具小売店舗の場合、必需品ではあるが急ぐ必要性はなく、さらに先行き経済を考えるとわざわざ上級モデルにする必要性を感じないという心理が大きく働くようだ。</p>	まん延防止等重点措置	寝具小売業
	<p>輸入商材の入荷遅延が続き業績に非常にマイナスになっている。</p>	輸入商材の入荷遅延	釣り商品販売
	<p>1月21日からのコロナまん延防止等重点措置を受け、外食、業務筋への水産物販売が減少した。今後もその傾向は続く予想される。海外からの輸入水産物は、米国、中国の高値購買力と円安の影響を受け、コスト高、単価高が予想される。今後3か月は、単価高により売上金額は維持されるが、利益面ではかなり厳しい局面を迎えるだろう。</p>	外食・業務用の販売量減少 コストアップ	水産物卸売
	<p>ほぼ予定通りに進んでいる。</p>	予定通り進行	ソフトウェア業
	<p>まん延防止等重点措置の影響により売上減少大きい。</p>	売上減少	日本料理
	<p>学校が一斉休校となった2年前の新中学1年生が今年新中学3年生になるが、そのころの影響がいまだに続いていて、この学年は塾に通っている生徒がいまだに少ないと聞く。弊塾もその影響が出ていて、新中学3年生の受講者が例年に比べて少ないままで、今後どこまで入塾者を増やせるか大いに不安。ただ、下の学年は入塾者が徐々に増えてきており、例年並みに回復しつつある。</p>	新中学3年生の受講者減	学習塾
	<p>高齢者の資産整理、相続による土地売却が増えている。ほか、コロナによるテレワークで住居が手狭になったことによる住居購入が増加。社会情勢の激変により、将来への不安が仕事にも影響している。</p>	土地売却増加 住居購入増加	不動産管理業
	<p>コロナの影響が長く続き、イベント&レンタル業の売上がほぼ全減。</p>	イベント・レンタル売上減	不動産代理業・仲介業
	<p>コロナや戦争など自力ではどうにもならない出来事への備えについて模索中。</p>	事業継続対策	不動産賃貸・管理業
	<p>原油の高騰が大きく収益に影響している。コストを経費になかなか転嫁できず収益の悪化は避けられない。今後も原油をはじめ輸送コストの上昇が早期に収束することを願う。</p>	原油、輸送コスト上昇	一般貨物自動車運送業
	<p>仕事は増えるが人材が不足しているため、売上増加が大幅には上がらない。</p>	人材不足	ビルメンテナンス業
	<p>コロナ禍の状況が続く限り、密になるようなイベントが増える事は無いと思います。ウィズコロナの社会には、安全な経口薬の様な物が市場に出回り、安全な環境だと思えるようなマインドが市場に増えるのを待つ事しか出来ないと考えます。安心は安全から生まれる心の問題だと思います。</p>	ウィズコロナ	レンタル・会場設営業
	<p>コロナ対策、対応に改善の兆しが見えない。</p>	コロナ対策・対応	情報通信業
	<p>2024年の働き方改革に向けて人員を増やさなければいけない中、求人広告費ばかりかさんで一向に人が来ないという危機的状況から早く抜け出さないといけない。</p>	人員不足	運送業
	<p>許可された外国人留学生が入国できず経営難である。</p>	外国人入学性の入国制限	日本語教育
	<p>プラント案件の受注活動の業務助勢で中長期案件を追いかけるため現状は、景況感として景気変動を受けず安定して運営。</p>	景気不変	工場機械設置に関する営業支援
	<p>テレワークが中心になりその自社内の設備投資が増えてきている。</p>	テレワーク設備投資増	IT開発

調査要領

調査期間

令和4年2月28日 ～ 令和4年3月9日

調査対象

柏市内128事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	163	115	70.6%
建設	34	20	58.8%
製造	39	25	64.1%
卸・小売	46	36	78.3%
サービス	44	34	77.3%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 う3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				